

トピックス

- ・第27回社会福祉士東北・北海道研修大会(秋田大会)
- ・3年間基礎研修を受講してみたい
- ・私の趣味
- ・ペンリレー

社会福祉士東北・北海道研修大会7年ぶりに秋田で開催



基調講演の様子



ワールドカフェの様子

2023年度第27回社会福祉士東北・北海道研修大会（秋田大会）が令和5年10月28日・29日の2日間、フォーラムアキタ（秋田県労働会館）にて開催されました。今回のテーマは「自分らしく生きる」を支える～社会的少数派を巡るソーシャルワークの可能性～で、参加者は2日間合わせて66名でした。始めに本大会の事務局を務めた当会の和田会長より、会則の変更に関する事、今年度から各県順繰りに事務局となり開催していくこと、懇親会での交流も大事にして欲しいとのあいさつがありました。

1日目は、性と人権ネットワークESTO代表の真木 柁鷹氏による基調講演「誰もが多様な性を生きている—性的マイノリティの視点から社会を考える—」が行われました。

性のあり方について、「性とは、男・女といった生物学的な性別のことだけを言うのではない。こころの性（性自認）、好きになる性（性的指向）、表現す

る性はひとそれぞれ異なっている。多様な性のあり方がある」との説明がありました。それを踏まえ「同性愛者やトランスジェンダーなど、同性を好きになる人、出生時に決定された性別に違和感のある方々など、いわゆる『性的マイノリティ』は身近なところにいる。しかしながら、ほとんどの人が打ち明けること（カミングアウト）ができずにおり、日常のなかで悩みを抱えている。周囲の無意識の偏見や差別で傷つくこともある。本人の承諾なしに性のあり方について他人に暴露する『アウトティング』はプライバシーの侵害であり、禁止されている」など、性的マイノリティの方々を取り巻く現状や法制度、理解を広めるための取り組みについて紹介されました。

真木氏は「色々な言葉を聞いて、ニュースや新聞を見て理解を深めてほしい。本を読んだり、アンテナをはって、当事者の話しを聞いてほしい」と語りました。

基調講演の後のパネルディスカッションでは今回のテーマを基に3名の方が登壇し実践報告がありました。

最初にNPO法人あきた結いネット理事長である坂下美渉氏より「不安定居住にある方の住居確保～秋田豪雨における復興支援について～」と題して秋田県豪雨被害の際の支援内容を報告されました。復興支援において社会的少数派の方に転居支援がスムーズにいかないこと、情報が行き届かないことなど課題があげられました。

2人目の特定非営利活動法人もりおかユースサポートの理事長である加藤源広氏からは、「生きづらさに寄り添い続けるために～もりおかユースサポートの活動を通して～」と題して、事業内容、取り組みの報告がありました。ニートやひきこもりの支援から始まり、不登校の学習支援や困窮者の就労支援等、若者の社会参加をサポートする様々な活動について紹介されました。

3人目の青森県重症心身障害児・者を守る会の理事であり、けっぱれ和land（わんど）医ケアっ子代表として活動されている藤本久美子氏からは「医療的ケア児の親になって知ったこと～小学1年生の気管切開児～」と題してご自身と息子さんとのこれまでの歩み、大変だったことや家族の思いを話されました。

その後、当会副会長の伊藤政利氏の進行の元、助言者として真木柁鷹氏にも参加頂き、パネルディスカッションが行われました。支援者に求められるのは「話を聞く」「共に考える」姿勢、誰に対しても支援は個別であるべき等活発な意見交換がなされました。また同時に環境へのアプローチも重要です。「相談先がなかったため、家族会をつくり声をあげられる場をつくった」「当事者団体がなかったため、はたらきかけて全国ネットワークをつくった」など、支援者が当事者の声を聞き届けたり、あるいは声をあげられる環境をつくることで、生きづらさを抱える人々を取り巻く環境を少しずつ変えることができるのではないかと、支援のヒントが得られました。参加者たちは熱心に耳を傾け、社会的少数者の支援について何ができるか、考えるきっかけとなりました。



パネルディスカッションの様子

## 参加者の感想

参加していただいた方々、実行委員メンバーから感想をいただきました。

### 池内 ゆかりさん

基調講演では実際のトランスジェンダーとしての経験談をもとに「自分らしく生きるを支える」をテーマに（性と人権ネットワークESTO代表真木氏）様々なお話を聴くことができました。LGBTの方は11人に1人（これは左利き・AB型の割合）だそうで、とても身近にいると感じた内容でした。

実践報告では3名の方の報告がありました。

今回の実践報告は、自分自身にとっても関係のある内容であったため大変感慨深く、加えて講師含め各団体の方々の裏のご苦勞がとても響くものがありました。

当事者の立場では、困ったときに声をあげやすい環境が整っていない、相談先に迷いが生じてタイミ

ングを逃し、結果生きづらさを感じてしまうという悪循環の社会について再認識をしました。テーマは「生きづらさ」を「自分らしく生きる」に転換していけるようなソーシャルワークの可能性でありましたが、課題に対して時代と共に、声をあげることだけにとどまらず、何もないところから何かを作り上げていくことの必要性、活動を広げることの大切さ、行政とのつながり。社会を変えるためにはどれ一つとして欠けてはならない大切なものだと感じました。

そしてそういった活動を行うにも、一人の力に加え、一緒に声をあげていく仲間、団体の協力や啓発力、周囲の理解のほか、私たち社会福祉士はプロとして、生きづらさを感じている社会的弱者のよき伴走支援が出来るように日々研鑽が必要と改めて考えさせられた研修でした。

またオンライン研修が続いていた昨今、久々の参

集型研修で懇親会では数年ぶりに笑顔で情報交換も楽しめました。日程が合わず当日参加できなかった会員の方々とも何かの形で一緒に学べる機会があればと思いました。

そして最後に主催者側の役員の方々には、お忙しい中準備の方すすめてくださり本当にご難儀おかけいたしました。そしてみなさま大変お疲れ様でした。

### 青森県社会福祉士会常務理事

工藤泰平さん

講演内容と、色々な方との交流を求めて人生2度目の秋田県を訪れました。もう1つ2026年青森県で開催する日本社会福祉士会全国大会に来てもらいたいという淡い期待も抱いていました。

基調講演では、色々な言葉を知ってほしいということでしたが…。何もわかってなかった、聞くほどわからなくなるという率直な感想でした。きっと今自分に出来ることは、まずは知ろうとすること、話を聞くということかなと感じました。

次の実践報告会では、生きづらさとは支えてくれる人や環境、制度が不足しているから生まれるが、ソーシャルアクションから、誰もが住みやすい社会へと変化し、支えの輪が繋がっていました。ただ、通常では考えられない日々の悩みや苦勞、努力、世間の反応があると感じました。

夜は懇親会。おいしい食事と有意義なお話。普段から、業務と社会課題に向かって精力的に取り組まれているであろうパワーを感じることができました。

2日目は、久しぶりの二日酔い…。テーマが『「自分らしく生きる」を支えるために私たちができることを考えよう』からワールドカフェでこんなことを話しました。誰かを支えるのでもない、私を支えられている！安心な世界を目指すこと。社会福祉士は、「さっする」という力があり、「聴く」ことが出来る。「14の心で聴く」は調べてください(笑)。

コロナ禍を経て、人と交流し対話する当たり前の

ことがどれだけ大切なのかを感じています。気づきを大切にして、人や環境をつなげるために取り組んでいきたいと思います。それが「自分らしく生きるを支える」一歩になると信じています。あつという間の2日間ありがとうございました。

### 岩手県社会福祉士会会員

八重樫宗俊さん

岩手県社会福祉士会の会員として参加させていただきました。ワールドカフェ方式に新鮮さを感じながら、多くの皆様と交流を持つことができました。それぞれの立場は違いますが、同じ社会福祉士という専門職として価値観の共有ができたことは、日々関わるクライアントに対して、「自分らしく生きる」を支える自分自身の確かな財産になりました。

### 東北・北海道研修大会 実行委員長

鈴木卓さん

今大会はコロナ以降初の対面での開催となり、心待ちにされておられた皆様の笑顔がとても印象的でした。また、「自分らしく生きる」を支えるというテーマのもと、ソーシャルワークの可能性を考える非常に有意義な研修会となりました。ご協力をいただきました講師、パネラーの皆様をはじめ、参加された皆様、各関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 東北・北海道研修大会 実行委員

羽川毅郎さん

私は大会運営全体に係る連絡調整等を担当いたしました。業務が滞りがちで大変ご迷惑をおかけしてしまい、反省しております。近年では全国大会(2010)、東北大会(2016)に続く秋田での大きな大会でしたが、当会会員のマネジメント力の高さを改めて実感しました。参加者アンケートでも「よかった」との声を多数いただきました。本当にありがとうございました。

## 3年間基礎研修を受講してみても

佐藤恭子さん

私は今年の3月で基礎研修の全過程を修了いたしました。研修を受講しようと思った理由は、成年後見人に興味があったからです。仕事をしている時に

お世話になっている方も多く、その対応や知識の深さに感動し、私も少しでも学ぼうと思いました。しかし、研修を始めたものの、受講期間中は日々の業務や課題などで疲れてしてしまい、途中挫折しそう

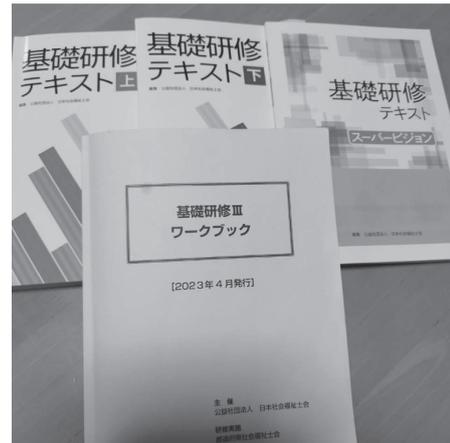
になった事もありました。何とか続ける事ができたのは、一緒に研修を行っている仲間との励まし合いがあったからだと思います。

仲間の中には成年後見人になるというしっかりした考えで受講している方が多く、私も一緒に頑張ろうと思うようになりました。以前知り合いから、「基礎研修を受講して一番良かったのは仲間ができたこと」という話を聞いた事がありました。その話のとおりで、私も受講をして、普段仕事をするうえであまり関わる事がなかった職種の方を知ることができ、業務なども聞く事もでき、とても勉強になり、受講して良かったと思いました。日々の業務の中で、研修で勉強した事や話を聞いたことがある内容がでてくると「この内容について話を聞いた」など一人で嬉しくなっていました。

私が受講したこの3年間は全てオンラインでの研修でした。直接会ってもいないのに話ができるだろうかと研修当初は緊張していましたが、最後の方はグループワークも話が盛り上がり時間が足りないと思うほどになっていました。「一度でも集合できた

ら良いね」という話はありませんでしたが、集合する事はできなかったため寂しさもあります。一部の方には受講期間中に他の研修でお会いする事ができ名刺の交換もできました。他の方々にも今後の研修などで会う事ができれば嬉しいです。

最後になりますが、研修委員や講師の先生、受講生の皆様、本当にありがとうございました。この3年間学んだ事や仲間とのつながりを大切に、今後の仕事に活かしていきたいと思っています。



## 私の趣味

会員の皆様の趣味に関してお話を伺いました。



### ☆柴田 聡さんの趣味は…

私はバイオリンを趣味の一つとして57歳から始めました。この歳になってバイオリンを始めるのは年齢的に無謀かなと思ながらも、バイオリン教室に通い始めて今年で7年目を迎え、週一のペースで教室に通っています。バイオリンは難しい楽器といわれますが、練習を重ね弾きたい楽曲が弾けるようになるのが楽しくて、ポケ防止のためにも続けたいと思っています。



### ☆粒来太樹さんの趣味は…

私の趣味は小学校から始めた「野球」。現在もやっており、社会人になってから初めてホームランを打つこともできました。また、今までは日本のプロ野球しか観てなかったのですが、同郷である大谷翔平選手の活躍もあり、最近ではメジャーリーグも観ています。大学で一度、野球から離れましたが、もう一度できていることに感謝し、これからも楽しんでいきたいです。



## ☆佐々木佳緒理さんの趣味は…

私の趣味は推し活です。JYPとBMSG（わかる方いますか??）が大好きで、YouTubeはほぼ全部観ています。ライブやイベントにも参加します。オーディションから一生懸命に頑張っている姿を見届けています。

頑張っていると言えば今年のお正月、東京に行く機会があり、箱根駅伝（1区と10区）を見に行きました。選手たちのひたむきな姿はもちろん、運営にもとても感動し、応援にも力が入りました。よく考えると私は頑張っている人を応援するのが好きなのだと思います。一生懸命頑張っている人を応援することで自分もエネルギーをもらえると感じています。これからも推し活でエネルギーをいただいて自分の生活の糧にしていきたいと思っています。



## ☆和田誠美さんの趣味は…

暇つぶしに始めたインスタグラム。今まで体験したことがない情報であふれていました。そこで心惹かれた世界が「登山」でした。青空につながる稜線、朝日で真っ赤に染まった山々、そこに行った者しか得られない感動を私も感じたい！と思ったのが登山の始まりでした。令和6年の目標は、「山頂で御来光を拝む」「こまくさ（高山植物の女王）に会いに行く」そのために今から体力づくりに励んでいます。超初心者ですが、ご一緒していただける方がおりましたらお声がけください。



## ☆高橋朋克さんの趣味は…

肉体よりも精神を酷使する現実において、僕は趣味に非日常を求めています。昔は日常であったであろう焚火を囲み心を休ませます。食事なんか適当でいい。眠くなったら自然の静寂に身を任せる。つまり何が言いたいかと言えば、僕はキャンプが好き。相当イカれているレベルだと自覚しています。会員の方で同士がいれば嬉しいです。



## ☆赤平一夫さんの趣味は…

若い時は、本格的に長距離走に取り組んでいたのですが、不整脈が見つかりしばらく走るのを止めていました。しかし、子供が小学生から長距離をやるようになり、応援だけでは物足りず気が付いたら各種マラソン大会に出場するようになりました。全盛期から15kgも体重が増え、当初は心臓のことも考え「10kmを完走する」を目標に参加していたのですが、スタートのピストルが鳴ると、負けず嫌いの性格がつい出てしまい40歳代、50歳代で周りと同じく争う様になってしまいました。マラソンの長所は、日々練習しているとストレスを溜めずに済むことです。駅伝にも参加しているので仲間との交流も楽しみの一つです。今年度還暦となり、体の衰えと相談しながら「生きている実感」を求めて継続していきたいです。



